

脳神経内科コース

主たる研修病院 (所属病院)		東京都立神経病院
連携して研修する病院・施設(予定)		東京都医学総合研究所
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)		以下のすべての要件を満たす者 1) 令和9年4月1日時点で、日本神経学会認定神経内科専門医又は日本専門医機構認定脳神経内科専門医の資格を有する者、又は受験資格を有する者 2) 都立神経病院で勤務しながら、医学博士の学位取得を目的として大学院等における研究を行うことを希望する者
コース責任者	氏名(所属)	蕨 陽子 (脳神経内科)
	資格名	日本内科学会総合内科専門医、同指導医 日本神経学会神経内科専門医、同指導医 日本神経免疫学会神経免疫診療認定医
	専門分野	脳神経内科一般、神経免疫学
臨床指導体制		当院には多数の脳神経内科専門医が在籍しており、各病棟に配置された医長のもとで診療が行われている。フェローは脳神経内科病棟に所属し、指導医の指導のもとで神経疾患の診療経験を積む。 また、各種カンファレンスや症例検討会、講義等を通じて、脳神経内科診療に必要な知識と技能を習得することができる。臨床研究については、指導医と相談しながら取り組むことが可能であり、研究活動を行うための体制も整備されている。 研修内容は、本人の希望や専門分野を踏まえながら調整することができる。
臨床研究	これまで行ってきた研究と実績	当院では、神経難病の臨床に根差した研究を行ってきた。 脳深部刺激療法(DBS)については、脳神経内科・神経小児科・脳神経外科が連携し、本邦における先駆的な取り組みを行ってきた。 また、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多系統萎縮症、パーキンソン病等の神経変性疾患に対する在宅医療や多職種連携、終末期緩和ケアに関する研究を継続している。 てんかん総合治療センターでは、診断から外科治療、病理解析までを含めた包括的なてんかん医療を実践し、その成果を発信している。 さらに、神経免疫学、神経生理学、神経病理学、画像診断、遺伝学など多面的なアプローチによる神経難病の診断・病態解明に取り組み、国内外へ研究成果を発表している
	今後行う研究と研究体制	科研費により研究が実施されているテーマとして、 体位性頻脈症候群(POTS)における中枢性自律神経障害の解明を目的とした神経メラニン画像研究、重症筋無力症に対する新規分子標的薬の現状評価と費用対効果に関する研究、小径線維ニューロパチーの症例データベース構築と臨床像の確立に関する研究、筋萎縮性側索硬化症超早期診断確立にむけた超音波画像の線維束性収縮自動解析システムの開発、に取り組んでいる。 研究体制としては、脳神経内科を中心に、脳神経外科、神経小児科、リハビリテーション科をはじめとする院内各診療科に加え、東京都医学総合研究所、東京都立大学等の外部機関とも連携しながら、診療と研究の両面から神経疾患医療の発展に取り組んでいる。 また、神経難病に対する治験や新規治療法の導入についても積極的に推進している。
研修項目		1. 神経免疫疾患、筋疾患、末梢神経疾患、神経変性疾患等を中心とした神経疾患の診療に従事する。 2. 訪問診療や地域連携活動に参加し、神経難病患者の療養支援について学ぶ。 3. シニアレジデントや若手医師の指導に関わり、教育・指導経験を積む。 4. 指導医のもとで臨床研究を行い、研究計画の立案、データ解析、学会発表および論文作成を経験する。 5. 各種カンファレンス、症例検討会、講義等に参加し、専門知識の向上を図る。
研修内容・達成目標		1. 神経疾患に対する専門的な診療能力を習得する。 2. 神経難病患者の長期療養支援に必要な知識と技能を身につける。 3. 臨床研究および基礎研究を通じて研究能力を養う。 4. 学会発表や論文作成を経験し、学術的活動に取り組む。 5. 将来の専門医療を担う医師としての資質を養う。
コース内容に関する問合先		蕨 陽子 (東京都立神経病院 脳神経内科部長) TEL: 042-323-5110(代表)